

## 第7話「話は終わっていないのに…」

課題	言いたいことを考えているのに、話が終わったと思われる
ストラテジー	「今考えている」ということを相手に伝える
効果	・言いたいことを考える時間を作ることができる ・言いたいことをどう言うか考えている間、相手が待ってくれる

### <課題>

言いたいことを考えているのに、話が終わったと思われる



太田に「苦手な食べ物はあるの?」と聞かれたスアンは、すぐに「ないかな」と答えましたが、実はまだ言いたいことがありました。でも、言いたいことを頭の中で考えているうちに、太田はスアンが言いたいことを全部言ったと理解し、話を次に進めてしまいました。それはスアンが言いたいことを考えているときに、だまってしまうので、スアンがまだ何か言いたいと思っていることが太田に伝わらなかったからです。それで、スアンは本当に言いたいことが言えませんでした。

### <ストラテジー使用場面>



太 田： 職場のみんなとは仲よくやれてる？

スアン： はい。あの、うーん… そうですね…

モニカは仲よくしてくれます。

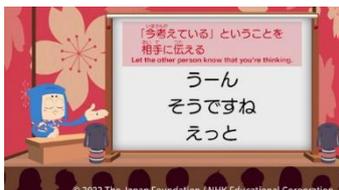
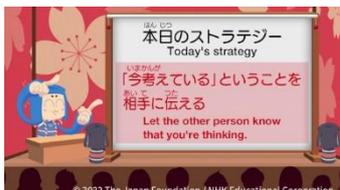
太 田： 日本人スタッフとはどう？

スアン： えっと… そうですね…

すみれさんにはたくさん教えてもらいました。

### <スアンが使ったストラテジー>

「今考えている」ということを相手に伝える



スアンは言いたいことを考えているときに、「えっと」「そうですね」などの表現を使いました。それを聞いた太田は、スアンがまだ何か言おうとして考えていると理解し、スアンが話し続けるのを待ってくれました。

### <どんなストラテジー？>

このストラテジーは、会話をうまく行うためのストラテジーの一つです。会話において、「沈黙(=だまってしまう)」は、話し手が交代するためのサインだと言われています。会話をしているとき、言いたいことがすぐに思いつかなかったり、ことばで表現できなかつたりすることがありますが、そのようなときにだまってしまうと、相手は「この人は言いたいことを言い終えたのだ」「次は自分が話し始めなければいけない」と考え、次の話を始めてしまいます。

このストラテジーを使うと、「今自分は話すことを考えている」「まだ話を続けようと思っている」ということを相手に伝えることができます。そのため、相手が話し始めるのを待ってくれる可能性が高くなります。また、何を言えばいいか思いつかなかったり、使いたいことばが思い出せなかつたりすると話すのをあきらめがちになりますが、この表現を使えば、すぐにあきらめなくていいというのも効果の一つと言えるでしょう。

### <どうやって使う？>

スアンが使っていた「えっと」「そうですね」といった表現は「フィラー」と呼ばれています。言いたいことがすぐにことばで表現できないときなどに沈黙をうめるための表現です。スアンのように、人に話しかけられたときの話はじめや話している途中で少し間を置きたいときなどに使うと効果的です。

フィラーは使い方のルールがあまりきびしくありません。「えっと」だけで使用することもできますし、「えっと、そうですね。」のように組み合わせても使うことができます。「えっと、そうですね。うん、まあ、そうですね。」などと複数組み合わせることもできます。ただし、あまり長く相手を待たせると、会話のテンポも悪くなりますので、組み合わせるのもほどほどにしておきましょう。

また、この表現は、「そうですね、えっと。」のように順番を入れ替えても大丈夫です。さらに、「えーっと」「そうですねー」などのように音を伸ばして使うことも多いです。

### ＜もう一歩＞ 自然にフィラーを使うために

スアンが使っていたような短いフィラー（「えっと」「そうですね」）以外にも、「なんていうんですかね」「どう言ったらいいかな」などのセンテンスのようなものも、フィラーとしての機能を担うことがあります。いつも同じ表現を使うと、話し方のクセのように見えてしまうこともあるので、いくつかバリエーションを持っておくことでより自然な感じに聞こえるでしょう。

また、フィラーをたくさん使いすぎるとかえって発話がスムーズに聞こえないこともありますので、使い過ぎに注意が必要です。「えー、今日は、うーん、みなさんと、えー、そうですねえ…」などのように文節ごとに入れてしまうのは使い過ぎです。特にスピーチやプレゼンテーションなど一人で話す場面では、フィラーはあまり使わない方がスムーズな話し方に聞こえます。

フィラーは人によって、そして、場面によって使われ方も変わります。周りの人がどんな場面でどんなフィラーを使っているかを観察してみて、効果的で自然なフィラーの使い方を見つけてください。